

整形外科

【一般目標】

- 1) 医療者の一員として診療に従事することで、医師としての責任感、職業的な技能、思考法、態度を、自らの実践の中で学ぶ。
- 2) 基本的診療手技とコミュニケーション技能を身につけ、患者およびその家族と良好な対人関係を築いて診療を進めることができるようになることを目指す。
- 3) 講義で学んだ知識を再確認し、また、講義では得られなかった、より実践的な知識を身につける。
- 4) 担当する患者の問題の理解に、基礎医学、臨床医学、社会医学の知識を応用でき、病因・病態の理解から診断・治療までの一連の流れを総合的に理解する科目横断的な知識の応用と、問題解決型の思考過程を身につけることを目指す。
- 5) 実際の医療に直接接するなかで、自分の将来の医師像を具体的に構築する。

【到達目標（行動目標）】

- 1) コミュニケーションを通じ、患者および家族と良好な人間関係を築くことができる。
- 2) 基本的な診療知識に基づき、患者および家族から診療に必要な情報を収集し、取捨選択して整理できる。
- 3) 身体診察を適切に実施し、所見を解析してその後の診療に必要な情報を収集できる。
- 4) 主要な症候を理解し、鑑別診断の原則に基づいて以後の診療の計画を立案することができる。
- 5) 整形外科領域で用いられる主要な検査について、概要、有用性、限界、危険性を説明し、結果を解釈できる。
- 6) 整形外科領域における主要疾患について、症候、病態、診断、治療を説明できる。
- 7) 収集した情報を基に、POMR<問題志向型診療記録>を作成できる。
- 8) 症例を要約する習慣を身につけ、状況に応じて適切な長さで提示することができる。
- 9) 診療に必要な知識・情報（MEDLINE やインターネット上で公開されている各種の診療ガイドライン等の電子化情報を含む）を、適切に検索・収集することができる。
- 10) 医療チームの構成や各構成員（医師、薬剤師、看護師、その他の医療職）の役割分担と連携・責任体制について説明し、チームの一員として参加できる。

【注意事項】

- 1) 端正な服装を心がけ、清潔な白衣を着用すること。ネームプレートを付け、靴を履くこと（サンダルは禁止）。
- 2) 患者さんや他の医療スタッフと接する際には大人としての礼節を保ち、態度、言葉遣いに気を配ること。特に、患者さんと接する際には、実習に協力していただくことに対する感謝の気持ちを忘れないこと。
- 3) 守秘義務、個人情報の管理には常に留意し、患者さんのプライバシー保護にも気を配ること。また、予断や想像に基づく無責任な情報は決して伝えないこと。
- 4) 欠席、遅刻の場合は必ず届け出ること。正当な理由のない欠席については、卒試の受験資格を与えないこともある。

【実習の内容】

- 1) 第1週の月曜日午前中にオリエンテーションを行い、ポートフォリオを配布するので、実習中に学んだこと、体験したことを実習中毎日漏らさず記入すること。また、実習中に調べた知識や検索した文献なども、すべて綴じ込むこと。
- 2) 第1週の月曜日に指導医を割り当てるので、以後は実習期間中、常時指導医と行動を共にすること。指導医の受け持つ患者と一緒に診療し、主治医グループの1人として入院から退院までの医療に参加すること。具体的にどのような診療行為を行うかは、逐一指導医の指示を仰ぐこと。
- 3) 病歴聴取や診察で得た所見、また、その後行われた検査の結果や今後の治療方針など、主治医がカルテに記載すべき事柄については、すべて学生用の紙カルテに記載すること。これは医師が実診療に使うカルテ（電子カルテ）とは別物であるが、主治医として実際に診療用のカルテを書いているつもりで、すべての情報を漏らさず正しい書式で記載すること。
- 4) 水曜日の教授回診の際には、患者の概要と現在の治療の進行状態を簡潔に教授に提示すること。また、水曜日と金曜日に症例カンファレンスがあるので、第1週の水曜日に出席して発表の手順を把握し、金曜日以降は、指導医の指定した症例について、主治医の代わりに症例提示を行うこと。そのために、既定の時間内で発表できるよう患者情報をまとめ、事前に準備しておくこと。また、火曜日にリサーチカンファレンスがあるので出席し、研究に取り組む姿勢を身につけること。

5) 大学病院での研修が必須であるが、1～2週間は研修生からの要望に基づき呉医療センター、広島市民病院、県立広島病院、マツダ病院などの市中の病院あるいは庄原赤十字病院、吉田総合病院、三次中央病院などの郊外の病院において、一般整形外科、外傷を中心に研修することができる。

(尚、郊外型の病院実習における宿舎は確保済み。)

【当科の週間スケジュール】

| | 行事、等 | 担当 | 場所 | 時間 |
|---|-------------------------------------|---------------|-------------------------------|--|
| 月 | オリエンテーション（第1週） 外来診察日、手術日 病棟診療 | 久保准教授 各指導医 | 医局 整形外科外来、手術室 7階東病棟 | 8:30-9:00 9:00-12:30 13:00-17:00 |
| 火 | 手術日 リサーチカンファレンス | 各指導医 | 手術室 医局 | 9:00-17:00 17:00-17:30 |
| 水 | 教授回診 外来診察日 症例カンファレンス | 各指導医 | 7階東病棟 手術室 7階東カンファレンスルーム | 8:30-9:00 9:00-16:00 16:00-17:00 |
| 木 | 外来診察日 病棟診療 | 各指導医 | 整形外科外来 7階東病棟 | 9:00-12:30 13:00-17:00 |
| 金 | 手術日 症例カンファレンス 試問（第4週） | 各指導医 | 手術室 7階東病棟 | 9:00-17:00 17:00-18:00 |

【評価】

10項目の到達目標が実習中にどの程度達成されたかを評価する。方法は、指導医による全体的な行動（パフォーマンス）の評価、教授回診での患者提示のでき具合、カンファレンスでのプレゼンテーションの内容、記載したカルテの内容の評価、ポートフォリオの内容の評価などによる総合評価である。また、知識面では、最終日の試問の際に当科領域に関する質問を行い、理解度をチェックする。

| 評価項目 | 配点 |
|--|----|
| コミュニケーションを通じて、患者および家族と良好な人間関係を築くことができる | 10 |
| 基本的な診療知識に基づき、患者および家族から診療に必要な情報を収集し、取捨選択して整理できる | 10 |
| 身体診察を適切に実施し、所見を解析してその後の診療に必要な情報を収集できる | 10 |
| 主要な症候と病態を理解し、鑑別診断と治療の原則に基づいて診療の計画を立案することができる | 10 |

| | |
|---|----|
| 整形外科領域で用いられる主要な検査について、概要、有用性、限界、危険性を説明し、結果を解釈できる | 10 |
| 整形外科領域における主要疾患について、症候、病態、診断、治療を説明できる | 10 |
| 収集した情報を基に、POMR<問題志向型診療記録>を作成できる | 10 |
| 症例を要約する習慣を身につけ、状況に応じて適切な長さで提示することができる | 10 |
| 診療に必要な知識・情報（MEDLINE やインターネット上で公開されている各種の診療ガイドライン等の電子化情報を含む）を、適切に検索・収集することができる | 10 |
| 医療チームの構成や各構成員（医師、薬剤師、看護師、その他の医療職）の役割分担と連携・責任体制について説明し、チームの一員として参加できる | 10 |

【参考図書、文献】

- 1) 標準整形外科学 共著 第12版 医学書院
- 2) 図解四肢と脊椎の診かた Hoppenfeld 著 首藤 貴翻訳 医歯薬出版株式会社
- 3) 整形外科医のための神経学図説 ー 脊髄・神経根障害のみかた、おぼえかたー Hoppenfeld 著 津山直一監訳 新装版 南江堂
- 4) 診療ガイドライン（公益財団法人日本医療機能評価機構の URL）
<http://minds.jcqh.or.jp/n/>

担当教員

安達 伸生 （教授）
砂川 融 （保健学科・教授）
久保 忠彦(准教授)
田中信弘(准教授),
中西 一義(講師), 山崎 琢磨(寄付講座准教授), 亀井 直輔(講師),
中前 敦雄(助教), 中島祐子(助教), 横矢 晋(助教), 石川正和(助教),
四宮 陸雄(助教), 庄司剛士(助教), 古田太輔(助教)